

令和5年度事業実績報告

都留市と3大学等（都留文科大学、県立産業技術短期大学校、健康科学大学）は、相互の連携体制のもと、教育研究の高度化・進展化を図り、学生を含むすべての市民に対し、より価値が高い学修活動の場を提供するとともに、社会の成熟化に伴う学習需要の増大や急激な社会変化に対応するための生涯学習、産官学民の地域交流の推進などを図り、更には、3大学間における相互練磨を行うことにより、それぞれがより一層特色と魅力あふれる教育機関となることを目指し、相互に連携を図る中事業を展開した。

令和5年度は、規約第3条に掲げられている6事業を推進するため、それぞれの強みを発揮する中、以下のとおり事業を進めた。

1 大学等と地域社会との交流及び連携並びに地域貢献に関する事業

(1) 市民参加型イベント・講座等の開催情報の共有化

（事業内容）

市民の生涯学習機会の拡充、大学等の地域貢献事業のPRにつなげるため、都留市や各大学等で開催しているイベントや講演などの情報を、大学コンソーシアムつるHP及び市広報トピックスなどを活用する中、担当者間の連絡を密に取り、情報の「見える化」を推進する。また、イメージキャラクター（コンつるくん&ツルシアちゃん）により、市民等に親しみやすい大学コンソーシアムつるを目指す。

【令和5年度実績】

大学コンソーシアムつるHPや市広報のコンソーシアム情報コーナーにより、各会員から情報提供を受け、各種市民向け講座等の情報の「見える化」を図った。また、市民等に親しみやすい大学コンソーシアムつるとするため、コンつるくん及びツルシアちゃんのイメージキャラクターにより、HPでの紹介を行った。

市役所1階ロビーのテレビ前に大学コンソーシアムコーナーを活用し、大学案内や各種イベントチラシを配架。市民課の横スペースのため、手続きの待ち時間等に大学案内を読み持ち帰る市民や、イベント案内を眺める様子がみられた。



【公式ホームページ】



【大学コンソーシアムコーナー】

(2) 市民や民間企業を対象とした研究成果の還元

（事業内容）

市民や企業を対象とした健康、福祉、医療、教育、防災、産業等の様々なデータを収集し、研究活動に活用するとともに、市民等公開講座や地元企業との連携による成果発表会などを通して、その研究成果を市民に対し還元する。

【令和5年度実績】

セーフコミュニティ推進協議会及び6つの対策委員会の委員として、実施計画や地域における取組の推進及び課題解決に向けて議論した。

また、市のまなびの未来づくり事業で立ち上げた「一般社団法人都留まなびの未来づくり推進機構」（通称：つるラボ）において都留文科大学と探究型学習の効果測定の共同研究を行った。

都留文科大学

通 年 : セーフコミュニティ推進協議会
外傷サーベイランス委員会委員長
セーフコミュニティ対策委員会各委員
つるラボと探究型学習の効果測定の共同研究

健康科学大学

通 年 : セーフコミュニティ推進協議会
外傷サーベイランス委員会委員

産業技術短期大学校

通 年 : セーフコミュニティ推進協議会

(3) 各種イベントへの共同参加

(事業内容)

各大学等で開催する公開講座及び各種イベント等への共同参加を呼びかけ、市内に所在する大学等の地域貢献を広く促し、各大学の持っている知的資源を市民へ還元する。

【令和5年度実績】

都留市主催イベント

〇つる産業まつり2023（令和5年10月）



10月に開催された「つる産業まつり」に大学コンソーシアムつるとして出展。各大学等から大学案内やノベルティ、オリジナルチラシを、都留市からはポン菓子が無償提供し、来場者に市内に大学があることでの地域への波及効果などを説明する機会を得た。

<産業技術短期大学校>

生産技術科の学生と教員が、3Dプリンターで作ったパーツにネジをねじこんでロボット型のキーホルダーを小学生6年までの児童を対象に説明しながら工作体験を行った。



<都留文科大学>

学校教育学科の特任教授による逆さゴマを用いた【ツルブン理科教室】と【ムリネモスタンプ】を出展し、200人弱の参加があった。



都留文科大学

○市民公開講座等開催

令和5年 7月：英語であそぼう！

ムササビ観察バスツアー

佐野夢加かけっこ教室

8月：諸橋轍次先生 原稿・書簡展示

10月：ムササビ観察バスツアー

湧水さんぽ

星空観察会

「ゆうやけ子どもクラブ！」上映会

&クロストーク

「東京の病弱教育の主人公たち」作品展

11月：つるぶんカフェ

星空観察会

ムササビ観察バスツアー

ブックカバー&しおり作り

12月：ムササビ観察バスツアー

光の不思議（顕微鏡、望遠鏡作り）

1月：デジタル時代の「本」を考える

光の不思議（顕微鏡、望遠鏡作り）

5月・8月：オープンキャンパス開催

10月～1月毎週火・水・木：VR等体験



健康科学大学

○第1回健科大看護の日フェスタ「くらしと看護」開催

放課後子ども教室「禾ーわくわくクラブ」と「禾ニっ子クラブ」が『看護師さんのおしごとを体験してみよう！』に参加。



○市民公開講座等開催

令和5年6・7・8・9・10・11・3月：オープンキャンパス開催

産業技術短期大学校

○ワクドキちゃれんじ「小学生ものづくりフェスタ」実施

令和5年8月：「かざぐるまで電気を作ろう！」「あんどくん赤外線センサー」製作

【かざぐるま】



【あんどくん】



○都留少年少女発明クラブ共催事業実施

令和5年8月：プログラミングでドローンを飛ばそう！



○市民公開講座等開催

令和5年8月：オープンキャンパス

「3DCADを使った設計の体験」「Pythonによるドローンの自動操縦」

○能力開発講座開催

4月～毎月開催：第二種電気工事士技能試験、ウインドウズ、ワード基礎・応用、エクセル基礎・応用、アクセス基礎・応用、DX実践、ホームページ開設（基礎・応用編）、新人社員研修、初心者のためのパソコン、商業簿記3級、3次元CADによる機械設計の基礎、宅地建物取引士、ISO9000シリーズ内部監査員養成コース、シーケンス制御、品質管理の基礎、プログラミング言語Python超入門など

(4) 市民大学事業

(事業内容)

都留市と3大学等との連携・協力体制のもと成人（現役世代）向けの事業として市民大学事業を実施する。大学コンソーシアムつるとしては、企画段階における開設コースや講座メニューの検討、各校で実施できる講座内容の提案、講座を担当する教員の選定、実施段階における担当教員との連絡調整、講座を実施する場所（教室）の提供などの協力を行う。

【令和5年度実績】

令和4年度より市内にある3つの大学等の先生方が講師となる「シリウスカレッジ」を開講し、年間を通して専門性を活かした様々な講座を行った。幅広い分野の最新の知識を学ぶとともに、実習やディスカッションを通して一緒に学ぶ仲間との交流を深めることとなった。

入学者：20代から70代の計17名 各コース10回＋開・閉講式

○くらしUPコース（都留文科大学・健康科学大学）

○ウェルネスUPコース（都留文科大学・健康科学大学）

○しごとUPコース（都留文科大学・産業技術短期大学校・健康科学大学）



【くらしUP コース】



【ウェルネスUP コース】



【しごとUP コース】

2 大学等相互の教育研究分野における連携に関する事業

(1) 大学間連携研究会事業

(事業内容)

大学コンソーシアムつる会員間の連携による資源の共有化と相互補完、効率的な教育改革の推進を進める中で、情報交換や人的交流を含めて連携の強化を図る。

人的交流として、産業技術短期大学校の社会学の履修科目の講師としての都留文科大学からの派遣を継続して行う。

若手職員等による「スリーキャンパス交流促進プロジェクトチーム」を設置し、中長期的な視野に立ち、“スリーキャンパス交流事業”を展開していく。

【令和5年度実績】

都留文科大学

通年：産業技術短期大学校の社会学の履修科目の講師として講師派遣

スリーキャンパス交流促進プロジェクトチーム

令和5年8、12月：PT開催

各大学等の広報活動、単位互換、施設の相互利用について協議

施設相互利用については協定書作成中

3 大学等と産業界との連携に関する事業

(1) 知見に基づく製品等の開発と研究成果の共有

(事業内容)

医療介護福祉分野に知見を有する健康科学大学及び産業技術短期大学校並びに市内の高度な技術を持つ機械金属工業事業者や介護事業者などとの連携により、機械金属工業をはじめとした地域産業の振興を期待する。

市内企業と健康科学大学との共同で、感染症対策の商品開発の取組による安全で住みやすいまちづくりへの貢献や事業拡大など、産学官連携による研究開発に向けて調整・研究を行う。また、卒業研究における民間企業（各種組合・業界団体・事業所）とその成果の連携を図る。

【令和5年度実績】

都留文科大学

○都留市・富士急行・都留文科大学
三者連携研究プロジェクト

都留文科大学教養学部地域社会学科のゼミ生と鈴木准教授が富士急行のサイクリングシェアサービス「Q-BIKE」を利用し、都留市の魅力をカフェ巡りや御朱印巡り等4つの視点から考えたサイクリングマップを作製した。



4 大学等の学生間交流に対する支援事業

(1) 各種イベント、ボランティアによる学生の交流支援

（事業内容）

子どもたちに「ものづくり」や「健康づくり」への興味を抱いてもらい、自校の魅力発信と将来の学生確保につなげるため、地域連携及び大学間連携を積極的に推進する。

都留市や都留文科大学が有しているボランティア情報を共有するとともに、ボランティア活動を各校共同で実施し、都留市が支援する子ども食堂等、市内のボランティア活動への積極的な参画を図る。

【令和5年度実績】

都留文科大学

都留市社会福祉協議会と都留文科大学のボランティア団体において、ボランティア情報等の共有と連携を図り、市民等に対しボランティアを実施した。

令和5年5月：つる子どもまつり

市内の複数の社会人サークルもコーナーを担当しイベントを開催

通 年：つるっ子プロジェクト

地域食堂「つる食堂」やお弁当等を自宅に届ける「つるギフト」、子どもたちと一緒に遊んだり勉強したりする「寺子屋」を耕雲院を拠点に活動

健康科学大学

令和5年9月：都留市総合防災訓練に教員と学生が参加



産業技術短期大学校

■ワクドキちゃれんじ「小学生ものづくりフェスタ」実施 1-（3）に掲載

令和5年8月：「かざぐるまで電気を作ろう！」「あんどくん赤外線センサー」製作

(2) 市補助金を活用した学生支援事業

(事業内容)

大学と市民・企業などとの間に連携が生まれることを期待し、市民や学生間同士が連携して、都留市をフィールドに企画・運営・実施するイベントやプロジェクト等に対し、その費用の一部を都留市から助成（市民委員会活動助成事業等活用）する。また、学生企画事業へと発展するように、インターンシップ等からアイデアを募り、実践する機会を創出する。

【令和5年度実績】

前年度実績の事例等を理事会、運営委員会、プロジェクトチームなどで紹介し、活用に向け学生への周知を行っている。

都留文科大学

しゅあはぴ 「都留市市民が主役のまちづくり活動支援補助金」
世界的な環境・社会問題についての講演会での講師派遣料の補助



5 大学等の広報に関する事業

(1) 市民参加型イベント・講座等の開催情報の共有化

(事業内容)

- ①本会主催イベント等のマスメディアへの周知、市広報への掲載
- ②市民参加型イベント・講座等の開催情報の共有化を図るため、大学コンソーシアムつるHP及び市広報トピックスなどを活用する中、担当者間の連絡を密に取り、情報の「見える化」を推進する。また、イメージキャラクター（コンつるくん&ツルシアちゃん）により、市民等に親しみやすい大学コンソーシアムつるを目指す。

【令和5年度実績】

大学コンソーシアムつるHPや市広報のコンソーシアム情報コーナーにより、各会員から情報提供を受け、各種市民向け講座等の情報の「見える化」を図った。

また、各大学等の地域貢献事業について紹介するチラシを各小中学校や産業まつりの際に配布し、各大学等の認知度向上・志願者数増に資するための情報発信を行った。

(2) 大学コンソーシアムつるを活用した市外、県外への大学情報発信

(事業内容)

- ①各大学の地域貢献について紹介する文書等を作成し、首都圏都留市会会員宛に発出し、首都圏在住者の各大学の認知度向上を図る。
- ②東京で開催される首都圏都留市会のイベントの際に大学コンソーシアムつるとしてブースを設け、各大学の地域貢献についてPRをし各大学の認知度向上を図るとともに、学生の就職の機会となるような各大学と企業のつながりを作る機会を設ける。

【令和5年度実績】

各大学等の地域貢献事業について紹介するチラシを首都圏都留市会会員宛に配布し、各大学等の認知度向上・志願者数増に資するための情報発信を行った。

令和5年10月：首都圏都留市会において3大学の冊子を配布し紹介

6 その他、本会の目的を達成するために必要な事業

(1) 「生涯活躍のまち・つる」事業の推進

(事業内容)

「生涯活躍のまち・つる」については、大学等が市民の生きがいづくりや社会参加において、大きな役割を担うことが期待されている。その中心的な役割を担う本会としても、大学等が「知の拠点」として、また、実践技術者の育成機関として、それぞれの特色を持った知的資源と人的資源を活かした学習プログラムの構築や連携による相乗効果を図れるよう、連携事業の検討を行う。

○単独(下谷)・複合(田原)プロジェクトでの3大学との連携

- ・単独型居住プロジェクト事業者/地域交流拠点と大学の連携事業検討
- ・複合型居住プロジェクトにおける地域交流拠点の在り方と機能の検討
- ・大学等と地域社会との交流及び地域貢献への検討

【令和5年度実績】

都留文科大学

○ぷらっとはうすの運営

地域社会学科の鈴木教授のオープンゼミとして、富士急行線谷村町駅舎を活用した「ぷらっとはうす」が平成30年にオープン。地域の子どもたちの居場所として都留文科大学、富士急行株式会社、早馬町自治会、都留市が協働で立ち上げた新しい地域づくり拠点として学生が運営している。



○単独型居住（下谷）プロジェクト

令和5年12月 落語研究会による「ゆいま〜る寄席」開催



健康科学大学

○単独型居住（下谷）プロジェクト

令和5年7月 ゆいま〜る都留にて七夕飾りのイベント



(2) セーフコミュニティの推進

（事業内容）

安全で安心して暮らせるまちづくりの実現を目指す「セーフコミュニティ」は令和3年8月に国際認証を取得した。この取組は、地域、行政、警察、家庭、学校など様々な分野の垣根を越え、市の課題に取り組んでおり、今後もより安全で安心なまちづくりのため、事業を継続していく。

活動開始当初から、大学等の学生、職員、教員が、科学的データに基づく取組を企画・実践しており、市民に周知し、まちづくり活動に貢献しており、また、セーフコミュニティの取組には、大学生を対象としたプログラムもあるため、本会として、活動に積極的に貢献していく。

【令和5年度実績】

・令和3年8月21日にセーフコミュニティの国際認証を取得。令和8年の再認証に向け、セーフコミュニティ推進協議会及び6つの対策委員会の委員として、実施計画や地域における取組の推進及び課題解決に向けて議論した。

（大学の関わり方）

○セーフコミュニティ推進協議会（2回実施）

都留文科大学、健康科学大学、産業技術短期大学校

○外傷サーベイランス委員会委員（3回実施）

都留文科大学（教授）、健康科学大学（教授）

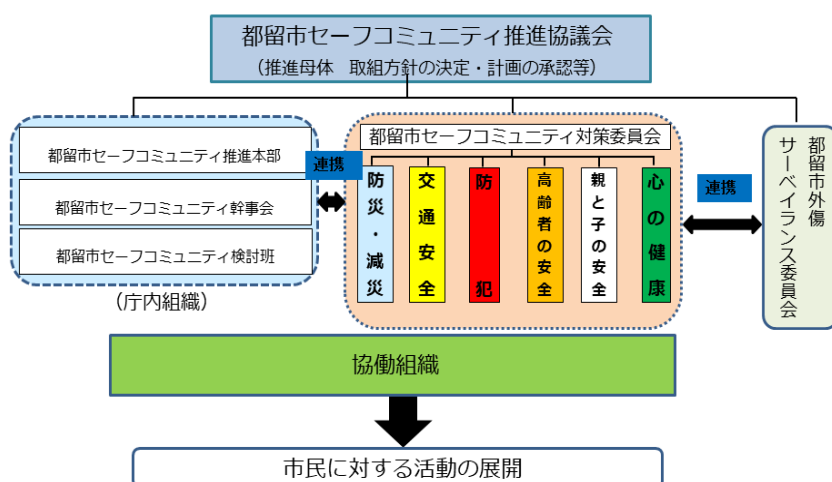
○セーフコミュニティ対策委員会(委員)

心の健康対策委員会（4回実施）：都留文科大学（学生）1名

防犯対策委員会（7回実施）：都留文科大学（学生）1名

交通安全対策委員会（9回実施）：都留文科大学（学生）2名

- 令和5年11月に交通安全対策委員会では、夜間の交通事故防止のため、都留文科大学学生の委員とともに都留文科大学6号館前にて授業終わりの大学生に向けて、反射材の啓発活動・配布を行った。



(3) SDG s の推進

(事業内容)

2015年9月の国連サミットにて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標の達成に向け、本会としても、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し取り組む。

【令和5年度実績】

令和5年9月23日 富士急行株式会社、都留文科大学との持続可能な地域づくりの推進に関する連携協定に基づき、都留文科大学から東桂コミュニティセンターまでの湧水群地域の景観保全のためのゴミ拾い活動を行った。総勢73名の都留市、富士急行株式会社、都留文科大学の職員と都留文科大学学生がボランティアとして参加した。



(4) 大学生の学修活動の場の提供の推進

(事業内容)

3大学生の教育研究の高度化・進展化を図り、市が学生のための学修活動の場を提供する。多様な分野の市の専門員や、地域に暮らす乳児から高齢者まで幅広い住民の現状を知るため地域に出かけ直接地域住民と触れ合うことでより実践的な学びを実習できるようにしていく。

【令和5年度実績】

令和5年6～7月：健康科学大学看護学部 公衆衛生Ⅱ

保健師を目指す保健師課程を学ぶ学生 13名

<長寿介護課・健康子育て課>

都留市オリエンテーション、乳幼児健康診査、特定健康診査、赤ちゃん訪問（乳幼児全戸訪問事業）、赤ちゃん広場、すこやか相談、のびのびすくすく教室夏野菜収穫体験、子育て支援センター（NICOT）見学、いーばしょ（学生による健康教室の実施）、ゆいま～る高齢者実態把握訪問、高齢者継続家庭訪問、地区調査、ケアマネ連絡会議参加、養護教諭・保育士・保健師合同学習会参加

令和5年9月：健康科学大学 在宅看護学実習 14名

<長寿介護課>

連携先：

いーばしょ田野倉、いーばしょ与縄、恵会、さなえ会、かるがもくらぶ、いーばしょ「小形山白澤」、笑くぼ等



令和5年11月：都留文科大学 学生と職員 36名

<健康子育て課>

ゲートキーパー養成講座